

### ◆ 野外オペ「西オングル」福島ケルン

18日に訪れた「福島ケルン」について。1960年10月10日、第4次越冬隊の福島紳隊員が猛烈なブリザードの中、約100mほどの場所まで犬の餌やりに出かけたまま行方不明となる事故が起きました。隊員総出の懸命な捜索にもかかわらず発見に至らず、事故発生から8日目に死亡と認定されました。60年近い日本の南極観測隊における唯一の死亡事故です。この事故を機に安全管理も見直され、建物間にライフロープが設置され、悪天候時は「外出注意令」や「外出禁止令」を出すようになりました。



管理棟近くにある福島ケルン

福島隊員の遺体は、7年4ヵ月後の1968年2月、基地から約4km離れた西オングル島の西端で、越冬交代して間もない9次隊により偶然発見されました。主風向の北東風の風下にあたることから、ブリザードの中、基地を探して数時間も歩き続けたものと考えられます。管理棟横の遭難場所には、第4次隊が建立した福島ケルン（南極条約議定書に基づく南極の史跡遺産に指定される）が、西オングルの遺体発見場所にもケルン、そして茶毘に付した場所には石積が残されています。

あらためて、ここで一句「**静かなる最果ての地に積む石よ**」（合掌）



茶毘に付した場所にある石積



遺体発見場所にある福島ケルン



胸に去来したものは・・・



1夏前に張られたライフロープ

### ◆ JARE57 隊員紹介

久保田 寛丈 (30) 越冬隊 機械担当 福岡県出身  
株式会社日立製作所インフラシステム社

県立浮羽高校から福岡大学工学部電子工学科に進学。大学院で電気工学を専攻し、ロボット制御（画像処理）の研究に取り組む。ロボカップでは3位入賞。卒業後、現職場に入社し、主として電力会社向けの保護継電装置の開発に携わる。南極へは所属部署から定期的に社員が派遣されており、その講演を聞いて興味を持った。越冬中は、発電機制御盤の保守管理・運用や各種データロガーの管理が任務となる。休暇時は、500mの深海に生息するライギョダマシを釣ってみたい。目標は150cm級。そのために、自転車の後輪ホイールをリールに改造し持参。ペダルを漕いで釣り上げる計画。皆さんへは「壁にぶつかっても、投げ出さず、あきらめないこと」とアドバイス。これは仕事の基本とのこと。出発直前に誕生したお子さんの育児に奮闘中の奥さんに「元気に頑張ってます」とメッセージ。

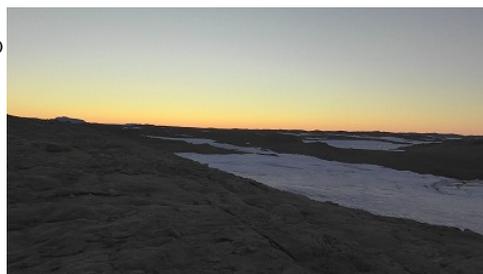


トランス交換作業中の久保田隊員

### ◆ 「白夜」終わる

1月21日。白夜のど真ん中の12月23日に昭和基地入りしてから、およそ1ヵ月。遂に白夜が終わりました。と言っても真っ暗にはなりません。ただ、夜の冷え込みは厳しくなってきました。やはり、太陽の力は偉大です。天候も不安定な日が次第に増えてきます。

2016.3.10.



南側。日没直後。この夕焼けの色が360°ぐるっと見渡すと、右のように次第にコントラストが変化して見えます。とても幻想的です。



北側。地球影（地平線上の薄青く見える部分）。空気の澄んだ南極では日没直後によく見えます。地球の影です。夕焼けに挟まれ美しい。